

# 平成28年度 滋賀県立信楽高等学校卒業式



平成29年3月1日、総合学科1期生が本校より旅立ちました。高校再編の中、変わり行く信楽高校の新たな1ページを刻んでくれた3年生。セラミック、デザイン、普通の各系列の中で、今後の糧となる学びや多くの経験を積んでくれたことと思います。変化の激しい社会の中でも、信楽高校で得たものを軸とし、力強く前に進んでいってください。卒業生諸君の、今後のご活躍をお祈り申し上げます。以下、卒業式当日に、3年生代表生徒が読み上げました「答辞」を掲載させていただきますので、ご覧ください。

信楽の厳しい冬を乗り越え、桜の木々が芽吹く準備をはじめ、そんな良き季節となりました。本日、私たち卒業生のために、このように厳かで晴れやかな式典を挙げていただきましたことを、卒業生一同心よりお礼申し上げます。信楽高校で過ごした三年間。長く感じることもありましたが、今振り返ると「たった三年間」でした。しかし、ここで過ごした日々の中には、かけがえのないものがたくさん詰まっています。

春。まだ少し寒さが残る信楽で、期待と不安が入り交った気持ちで迎えた入学式。可愛い制服に心が弾みました。初めて顔を合わせる同級生。授業にちゃんといけるだろうか。先輩や先生とはうまくやっていけるだろうか。友達はできるだろうか。緊張と不安でいっぱいだったことを今でも覚えています。はじめは緊張し、静かだった教室も、日が経つにつれ賑やかな声であふれていきました。

夏。緑が茂り、大きな青空に高く伸びた入道雲を思い出せば、体育大会の思い出がよみがえってきます。三年次生として、信楽高校最後の体育大会は、後輩を引っ張り、全力で楽しんだ二日間でした。団アピールでは、曲を決め、振り付けを考え、放課後遅くまで練習をしました。練習前の準備や、後輩へ正しく伝える難しさに振り回される中で、三年生の中で意見を調整することに苦労しました。本番当日、全員の動きがきちんと揃い、練習の成果が発揮できた瞬間は、今までにない興奮に打ち震えました。写真に残る、私たちの日焼けした姿と笑顔が、楽しかった気持ちを何よりも表しています。

秋。まだ暑さが残るもの澄み渡る秋空を思い出せば、文化祭の思い出がよみがえってきます。信楽高校伝統の演劇発表。台詞を覚え、衣装や大道具を作り、舞台を演出し、一人ひとりが真剣に自分の役割と向き合いました。「いいものを作りたい。」みんなの強い思いがぶつかることもあり、「大丈夫。楽しもう。」そう言って励まし合った本番前の更衣室。高校生活最後の演劇は、クラスが一つになった瞬間でした。一つのものを作り上げるために、みんなでがんばった日々を思い出すと胸が熱くなります。

冬。冷たい空気に変わり、吐く息が白くなる寒さを思い出せば、修学旅行の思い出がよみがえってきます。九月に行くはずだった東京への修学旅行。台風の影響で延期となり、やっと一月に行くことができました。高いビルを思わず見上げ、ずっと先まで続く広い夜景に感動しました。自由研修では、見慣れない大都会を冒険しました。美味しいものを食べたり、買い物をしたり、観光名所を訪れたり。ディズニーリゾートでは、友達とお揃いの格好をして、夢のような時間を一杯楽しみました。ホテルで夜遅くまで友達と語りあったり、思い出の写真をたくさん撮ったり、とても楽しい三日間でした。

雪の白さを思い出せば、第一回総合学科発表会を思い出します。各年次で学んだことから得た知識や意見を発表しあう、とても有意義な発表会でした。普段、自分の系列以外ではどのようなことを学んでいるのか知る機会がなく、他系列の発表を見ることはとても勉強になりました。普段は見せない友達の真剣な表情、新たな一面、技術の高さに驚きと感動を覚えました。発表を通して、互いに切磋琢磨し、励みあうことが、自らの学習意欲に拍車をかけ、より一層の努力を可能にすることに改めて気づきました。

もちろん何気ない日常にもたくさんの思い出があります。心地よい日差しと温かさの中で居眠りをする友人を起しながらかけた授業。分からないところを隣の友達に教えてもらったり、テスト前になると、休み時間に問題を出し合ったりしました。自分が知らないことを学び、知識を習得していく時間は、とても楽しいものでした。実習授業では、自分の表現したい理想の形を目指して、日々作品と向き合いました。時には、先生や友達に相談しながら工夫を凝らし作品を仕上げました。先生の話に集中しながらノートをとった授業、友達と一緒に食べるお弁当の時間、ふざけあった廊下や、放課後遅くまで語り合った教室。何気なく過ごしていた、当たり前の毎日がかけがえのない日々でした。

在校生の皆さん。体育大会や文化祭などでたくさん迷惑をかけたと思います。それでも一緒に過ごした日々が、私たちに何か一つでも残るものを残してくれたのでしょうか。私たちは、友達とふざけあいながらも、切磋琢磨する日々がずっと続いていく、そんな気持ちで毎日を過ごしてきました。しかし、私たちが今日という日を迎えたように、別れの日は必ず来ます。この信楽高校で、後悔しないよう、残りの学校生活を全力で過ごして欲しいと願っています。

先生方。いつも話を聞いてくださった先生。「おはよう。」と明るい挨拶で毎日私たちを見守ってくださった事務室の皆さん。毎日、綺麗な校舎で私たちを迎えてくださった業務員さん。私たちは本当に、優しく、よい先生方に恵まれました。私たちが間違った方向に進みそうな時は、心を鬼にして叱ってくださいました。その気持ちに気付かず、ひどい言葉であたってしまったことや、迷惑をかけてしまったこともあり。親身になってかけてくださった言葉は、今思えば、全てが愛にあふれたものでした。入試や就職試験の時は、「大丈夫。頑張っておいで。」と背中を押してくださいました先生方が、私たちがここまで成長することができたのは、先生方のおかげです。「人を思いやり、自分をしっかりと持つことの大切さ。」「夢を持ち、夢をきらめないことの大切さ。」「生きていくことの大切さ。」「多くの大切なことを教えてくださいました。感謝してもきれません。本当にありがとうございました。私たちは先生方のことが大好きです。

ご臨席いただいた地域の皆様方。今まで大変お世話になりました。我が子を見守るように私たちに接していただき、多くのご支援をいただきました。私は、温かく、優しい雰囲気のある信楽の町が大好きです。いつか、この信楽に恩返しができるように、日々精進して参ります。信楽高校は、今年度、総合学科が完成いたしました。私たち後輩のため、これからも温かく、時に厳しく見守っていただくと幸いです。

お父さん、お母さん。三年間、学校に通わせてくれてありがとうございました。私たちが育てることは、決して楽なものではなかったと思います。いつも優しく、私たちを支えてくれました。毎日作ってくれた愛情いっぱいのお弁当、とても美味しかったです。時々反抗して、ひどい言葉で攻撃、迷惑や心配をかけてしまうこともあり。それでも、どんな時でも私たちの味方でいてくれたことに心から感謝しています。朝早い時には車で送ってくれ、辛いことがあった時には、ずっと話を聞いてくれました。進路に悩み、相談した時には、「好きなことをしていいよ」と言ってくれ、背中を押してくれました。私たちを信じ、誰よりも、最後まで私たちの未来を応援してくれる姿に勇気づけられ、より一層頑張ろうと決意しました。今まで優しく、厳しく、私たちを育ててくれてありがとうございました。お父さんとお母さんの子供に生まれて幸せです。三年間、共に過ごした仲間。みんなが同級生で、みんなと楽しい思い出を作れた本当によかったと思っています。県内だけではなく、全国からも高い志を持って集った仲間と勉強し、励みあった日々は、かけがえのない大切なものでした。私がつらいとき、変な顔をして笑わせてくれてありがとうございました。私が嬉しくするとき、自分のことのように喜んでくれてありがとうございました。私たちは、三年間で友達という一生の宝物に出会いました。私たちは一人ではありません。これから続く道は長いけれど、みんなのことは忘れません。みんなに出逢えてよかったです。ありがとう。

平成二十九年三月一日。私たち58名は、信楽高校を卒業します。

友と笑い、苦しみを分かち合い、勉強し励んだ教室。友と共に汗を流したグラウンドや体育館。心地良い揺れに、つい居眠りをしてしまう信楽高原鉄道の中。坂を上ると見えてくる、赤く輝く伝統ある校舎。ここ信楽高校は、私たちの思い出が詰まった宝箱です。「アラブの春」以降、不安定な情勢が続く中東。難民問題に揺られ、その真価が問われるヨーロッパ連合。主要国の指導者が変わる中、世界はより不透明な時代を迎えようとしています。多くの人に見守られ、安穏と過ごした宝箱の蓋を開け、私たちは新たな世界へ踏み出します。先行きが不透明だといわれる世の中ですが、信楽高校で学んだことを胸に、信楽高校卒業生としての誇りを持ち、人の痛みが分かる、思いやりのある人間になれるよう努力し、頑張っています。大きな器の、大きな人間になります。大好きな信楽高校、本当に三年間ありがとうございました。

これからの信楽高校の益々の発展を願い、答辞といたします。

平成二十九年三月一日 卒業生代表

